

みんぱくワールドシネマ

映像から考える＜人類の未来＞



©Vidhu Vinod Chopra Films Pvt. Ltd.

第50回上映会

2021年 **9月11日** [土] 13:00～16:15 (開場12:30)

※開場時間と上映開始時間がこれまでより30分早くなっております。

場所 **国立民族学博物館 講堂** (要展示観覧券(一般 580円))

定員 **160名** 事前予約の方へ入場整理券を**11:00**から本館2階講堂前にて配付します。

主催 **国立民族学博物館**

Lage Raho Munna Bhai

2006年 / インド / 144分 / ヒンディー語 / 日本語字幕付き **日本初公開**

監督 / ラージクマール・ヒラニ

出演 / サンジャイ・ダット アルシャド・ワルシ ヴィディヤ・バラ

司会 **松尾瑞穂** (国立民族学博物館 准教授)

解説 **杉本良男** (国立民族学博物館 名誉教授)

申込方法

事前予約・定員制(先着順)での開催となります。受付期間 8月12日(木)10時～9月3日(金)17時(定員になり次第受付終了)

当館ホームページのイベント予約サイトよりお申込みください。(代表者を含め2名まで)

メール・電話でのお申込みも受付ます。次の必要事項をお知らせください。

- ①件名に「9月11日ワールドシネマ」 ②参加人数(代表者を含め2名まで) ③氏名(漢字、フリガナ) ④連絡先(固定電話／携帯電話／メールアドレスのいずれか) ⑤お住まいの都道府県 (③～⑤は代表者のみ)

【申込先】企画課博物館事業係イベント予約受付 E-mail: yoyaku-event@minpaku.ac.jp Tel: 06-6878-8210 (10時～16時 土日祝を除く)

定員に満たない場合のみ当日参加を受付ます。予約状況はイベント予約サイトでご確認ください。

新型コロナウイルス感染症の予防のため、イベントを変更・中止する場合がございます。また、ご入館に際しては感染症対策にご協力ください。

詳しくはホームページをご確認ください。 ※解説時に手話通訳が必要な方は8月20日(金)までにお申し込みいただき、その旨をお知らせください。



イベント予約サイト↑



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



みんなくワールドシネマ

映像から考える＜人類の未来＞

国立民族学博物館は2009年よりさまざまなテーマを設定し、研究者による解説付きの映画上映会「みんなくワールドシネマ」を開催してきました。今年度も「映像から考える＜人類の未来＞」をテーマとし、世界の人びとのさまざまな生活・考え方を描いた映画とともに、よりよい未来を考えていきます。今回の作品はインド映画「ムンナ兄貴とガンディー」です。ヤクザ者のムンナがひょんなことからガンディーの幻に出会うようになり、彼の助言を実際の社会や日常生活の中で実践していくという奇想天外なストーリー。インド映画の名作として名高いこの作品をととして、現代社会におけるガンディーの思想について改めて考えたいと思います。

第50回上映会

2021年9月11日(土) 13:00～16:15 (開場12:30)

※開場時間と上映開始時間がこれまでより30分早くなっております。

場所 国立民族学博物館 講堂

定員 160名 事前予約の方へ入場整理券を11:00から本館2階講堂前にて配付します。

主催 国立民族学博物館

協力 在大阪・神戸インド総領事館 / 東京外国語大学 TUFS Cinema

Vidhu Vinod Chopra Film Pvt.Ltd. / Director Rajkumar Hirani (India)

ムンナ兄貴とガンディー Lage Raho Munna Bhai

2006年／インド／144分／ヒンディー語／日本語字幕付き **日本初公開**

監督／ラージクマール・ヒラニ

出演／サンジャイ・ダット アルシャド・ワルシ ヴィディヤ・バラン

司会 松尾瑞穂 (国立民族学博物館 准教授)

解説 杉本良男 (国立民族学博物館 名誉教授)

映画解説

ふとしたきっかけでマハトマ・ガンディーの幻影が見えるようになったヤクザ者が、ガンディーの信念を柔軟かつ大胆に応用して現代の理不尽に立ち向かう、日本劇場未公開の痛快コメディ。義侠心溢れる弟分を引き連れ、時には暴力にも訴えてきたムンナ兄貴は、憧れの女性DJに好かれた一心で、自身を大学教授と偽り不慣れな猛勉強に励んだところ、かのガンディーが彼の眼前にのみ姿を現すように。強力な守護神を得て、ラジオのお悩み相談を引き受けた彼は、ガンディー直々の回答を自己流に咀嚼し伝え、ムンバイ中の大衆の心を掴むが、第二の人生を楽しむための高齢者施設も兼ねた、愛しの彼女の邸宅乗っ取りを目論む魔の手が忍び寄る。後に「きっと、うまくいく」(09)などの傑作を生むラージクマール・ヒラニ監督は、屈強な腕っぷしで渡り歩いてきたアウトローが、愛や非暴力の尊さに目覚めて変貌するさまや、社会の裏も表も知る彼らしい実感こもる言葉に突き動かされる人びとを、巧みな伏線や細やかな描写を重ねて生き生きと映し出す。ガンディーとは似ても似つかぬ男の飛躍を通し、その哲学に新たな光を当て、誠実に心を開き行動で示すことの意義を改めて謳う、映画大國インドならではの味わい豊かな佳篇だ。(映画評論家 服部香穂里)

ガンディーを再認識させたインド娯楽映画

インドのガンディーを扱った映画は、イギリスのアッテンボロー監督による「ガンディー」(1982年)にすっかりお株をとられた感があるなかで、「ムンナ兄貴とガンディー」は、直接ガンディーの生涯を扱ってはいるわけではないが、その存在が重要な意味を持つ映画である。この映画は典型的な Bollywood 娯楽映画で、ヤクザ者のムンナ・バーイを主役にしたシリーズの二作目である。主演はサンジャイ・ダットで、第一作目には父役として実父の大スター、スニル・ダットが出演していた。ストーリーが荒唐無稽である上に、私生活でもなにかと問題の多いサンジャイ・ダットが主役をつとめていて楽屋落ちに笑えるのだが、映画は大ヒットとなった。大衆娯楽映画部門をはじめ4部門で2006年度国民映画賞をうけたほか、国内の映画賞を数かず獲得した。さらに、海外からの批評もすこぶるよくて、国際的に高く評価され、さまざまな榮譽を受けている。「ムンナ兄貴とガンディー」は、アッテンボロー版の「ガンディー」に対するインドからの応答のようになった。ガンディーに学んで行動するそれまでの「ガンディー主義」をもじった、より大衆的な「ガンディーギリ」(ガンディー気取り)を流行させて社会的にも大きな影響を与えたのである。(杉本良男)

映像から考える＜人類の未来＞

国立民族学博物館 准教授 菅瀬品子

映画がこの世に誕生して、120年あまり。最初には日常生活の一端を切り取ったものでした。いまや日本では年間に1300本に迫る数の映画が公開され、その内容も多種多様です。世界のさまざまな地域で、現在進行形で起きている問題を扱う作品も年々増えてきました。問題意識を喚起する手段として、映画は実に有効なのです。

みんなくワールドシネマでは、所属する研究者の個別研究や現在進められている研究プロジェクトの内容に沿った映画を選び、その内容を研究者が解説することによって、最新の研究成果と映画のより深い理解を観客のみならずと共有することを目的としています。紛争、差別、環境変動などを超えて、異なる価値観を持つ人びとはどう共存してゆくべきか。終映後、あらたな視座がみなさまの中に生まれれば、さいわい입니다。



©Vidhu Vinod Chopra Films Pvt. Ltd.

次回作品 2022年2月12日(土)予定

テルアビブ・オン・ファイア

האש על אביב / Tel Aviv on Fire

2018年 / ルクセンブルク・フランス・イスラエル・ベルギー合作

/ 97分 / ヘブライ語・アラビア語 / 日本語字幕付き

監督 サメフ・ザビ

出演 カイス・ナシエフ ヤニブ・ヒトン



©Samsa Film - TS Productions - Lama Films - Films From There - Artémis Productions C23

特別展

ユニバーサル・ミュージアム ——さわる!“触”の大博覧会

2021年9月2日(木)ー11月30日(火)

観覧料：一般880円 場所：特別展示館

企画展

躍動するインド世界の布

2021年10月28日(木)ー2022年1月25日(火)

観覧料：一般580円 場所：本館企画展示場

※詳細は当館ホームページをご確認ください。



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

ご来館のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症の予防のため、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。またオンライン予約での来館にご協力ください。

●開館時間……………10:00～17:00(入館は16:30まで)

●休館日……………水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

交通のご案内

●大阪モノレール…「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分

●バス……………阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。

同園内を無料で通行できます。

※高校生以下の方、「国立民族学博物館友の会」会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、

みんなくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。

※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

●観覧料……………一般580円／大学生250円／高校生以下無料

※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10番1号

企画課 博物館事業係

Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242

https://www.minpaku.ac.jp/

